

平成27年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	地域づくりを牽引する技術者育成教育 「まち」なかキャンパスにおける地域デザイン力涵養のための対話型学修の実践	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	工学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	須坂市	
実施責任者(所属)	土本俊和 (工学部)	
取組の目標	文化資源が豊富な須坂市を教育の現場として、地域のニーズをふまえた地域づくりの能力「地域デザイン力」を涵養するための対話型学修を、都市と建築を通じて新たに開発・実施する。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	①講義 ・建築設計製図Ⅳ「街区の再生」【3年次生対象・後期開講必修科目】 須坂市(旧上高井郡役所)にて計10回の講義を行い、須坂市と須坂景観づくりの会の協力のもと対話型学修を実施し、歴史的市街区と歴史的建造物の再生案を提案した。2月6日には市民公開講評会(須坂市シルキーホール)を開催し、優秀作の発表を行った。 ・認知環境システム学演習【大学院演習・通年】 須坂の歴史的市街区の公共性について調査し、休息を前提とする空間を提案し、ベンチを実際に制作した。2月6日には市民公開講評会(須坂市シルキーホール)を開催し、作品の発表を行った。 ②調査研究 ・旧小田切家住宅の保存・活用にむけた調査研究【期間：通年】 旧小田切家住宅(須坂市指定有形文化財)の建物について、保存・活用にむけた調査研究を実施した。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた Ob. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	(そう評価する理由) 対話型学修の導入に向けて取り組みを実施したものの、本年度の導入は建築設計製図Ⅳ「街区の再生」【3年次生対象・後期開講必修科目】にとどまった。 (今後の展望) 今後は、本教育プログラムを継続しつつ、対話型学修の導入を体系的に進めるとともに、その効果を測るための評価の仕組みを検討する。